

人権学習展開例〔第１・２学年〕

1 主 題 様々な国の文化や生活にふれる

2 教材名

3 せかいの あそびを しよう



3 主題・教材について

世界には、いろいろな国や地域があり、服装や習慣、言語などが異なる多様な文化が存在する。子どもたちの遊びもその一つである。県内にも、韓国・朝鮮をはじめ、中国、ブラジル、フィリピンなどを母国にしている人たちが数多く在住していて、子どもたちが出会う機会も増えてきている。

この教材では、子どもたちの身近な遊びを通して異文化理解のきっかけとしたい。コンピュータやゲームの普及により、世界の子どもたちの遊びに差異が少なくなっていることも考えられるが、各国や地域の昔の遊びを体験し、異文化に対する豊かな出会いにしていきたい。

（関連教科・領域：生活科、特別活動）

4 ねらい

- ・それぞれの国や地域には、昔から楽しまれてきた遊びがあることを知る。
- ・世界の遊びを体験して、みんなで楽しむ。

5 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導 入	知っている遊びを発表しよう。		
	・ふだん、みんなでしている遊びを交流する。	・おにごっこやかくれんぼなどの日常の遊び以外にも、こま回しやすごろくなど伝統的な遊びにも着目させる。	
展 開	外国にはどのような遊びがあるのだろう。		
	・教材「せかいの あそびを しよう」の絵を見て、外国の遊びの内容を想像する。	・教材に登場する国を地図で示す。	世界地図
	・日本の遊びと比べる。	・イラストから、日本の遊びと似たところがないか考えさせる。	参考資料—資料3
		・遊びの内容を紹介する。	
開	外国の遊びを楽しもう。		
	・韓国、インドネシア、マレーシアのジャンケンをする。	・ジャンケンのルールを説明する。	参考資料—資料3
ま と め		・慣れてきたら、それぞれの国のかけ声をかけながらジャンケンをさせる。	
	・アメリカの遊び「ダックアンドグース」をする。	・「ダックアンドグース」のルールを説明する。	参考資料—資料3
		・頭をさわるときは、軽くふれるようにさせる。	
ま と め	感想を出し合おう。		
	・遊びを体験した感想を出し合う。	・他の国の遊びにも興味をもち、やってみたいという気持ちをもたせたい。	

〔資料〕世界の子どもたちの遊び

オランダの遊び

○ヒンケレン

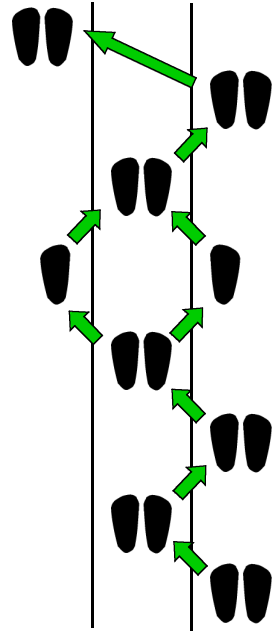
日本の石けりと大変よく似ている遊びです。地面にいくつかのマスを描き、手前のマスから順に番号を書き入れます。

- ①小石を1番のマ스에投入してスタートします。
- ②小石が入れば、1番のマスを跳び越えて2番のマスに進みます。その時、横二つに並んでいるマスには両足で着地し（パ）、一つのマスの場合には片足で着地します（ケン）。
- ③②の要領で最後のマスまで進み、向きを変えて、帰りに石を拾い、スタート地点まで戻ります。
- ④小石は1番のマスから始め、順に大きい番号のマ스에投入していきます。途中で失敗すれば交代となります。

ケニアの遊び

○ブラダ

- ①ゴムひもの両端をしっかりと結び、大きな輪を作ります。持ち役の2人が向かい合って立ち、両脚を少し開き、2人ともくるぶしの外側にゴムひものをひっかけてピンと引っ張ります。（ゴムひもの高さは、くるぶしから始め、膝、腰、脇の下へと順々に上げていきます。）
- ②ゴムとびをする子どもは、図に示した順に、まず、両足をそろえてジグザグに3回跳びます。次に、両脚を開いて跳び、その次に、両足をそろえて、またジグザグに跳びます。最後の1回は、張られたゴムひもの外側から外側へ跳びます。全部で7回跳ぶことになります。
- ③持ち役を交代しながら、全員がゴムとびに参加し、その高さにチャレンジし終えたら、ゴムひもの高さを上げていきます。（ゴムひものに触れてもかまいませんが、踏んだり、またいだりするのは認められません。）
- ④途中で跳べなくなると、その子どもは除かれます。一番高いところで跳べた子どもが勝ちとなります。



アメリカ合衆国の遊び

○ダック アンド グース（ダック ダック グース）

アメリカの伝統的なゲームで、日本のハンカチ落としに似た遊びです。

- ①輪になって座り、一人がおにになります。
- ②おには、「ダック（アヒル）」と言いながら、一人ずつ頭に軽くふれながら輪の周りを歩きます。
- ③おには、一人を選んで「グース（ガチョウ）」と言って、その子の頭に手をふれます。
- ④「グース」に選ばれた子はすぐに立って、輪の周りを走り、おにを追いかけます。
- ⑤おにがグースにつかまらずにグースが座っていた場所についたら、おには交代し、グースになった子が新しいおにになります。逆ににおにがグースにつかまったら、おにはそのまま同じ子がします。

ブラジルの遊び

○パタタ・ケンチ

ポルトガル語で、パタタは「熱い」、ケンチは「じゃがいも」という意味です。

- ①輪になって座り、一人がおにになります。おには、輪の外側に出て目隠しをします。
- ②おに以外のは、「パタタ・ケンチ（熱いじゃがいも）」と言いながら、じゃがいもに見立てたボールやハンカチなどを回していきます。
- ③おには、自分の好きなタイミングで「ケイモウ（やけどした）！」と叫びます。
- ④おにが「ケイモウ」と叫んだ時に、じゃがいも（ボールなど）を持っていた人が次のおにになります。

フィリピンの遊び

○バンブー・ダンス

バンブー・ダンスはフィリピンなどに伝わるバンブー（竹）を使った踊りです。

3拍子のリズムに乗って、①で両側に座った2人が両手に持ったバンブーを打ち、②、③でバンブーを外に広げ、台に打つということをくり返します。バンブーの動きに合わせて、足を挟まれないように、片足や両足でステップを踏んで踊るというものです。

韓国・朝鮮の遊び

○コンノリ

コンノリは日本のすごろくに似た遊びで、サイコロの代わりに「ユッ」という4本の木の棒を投げます。

- ①2チームで行われ、1チームにつきコマは4つ。4つ全てを最初にゴールさせたチームが勝ちです。
- ②ユッの表裏の組み合わせでコマが進む数が決まり、全て裏、または全て表の場合は、もう一度投げるができます。
- ③「ユッは目の上よりも高く投げる」、「最後はぴったりの数が出ないとあがれない」などのルールがあります。

○チェギチャギ

日本の蹴鞠（けまり）に似た遊びです。小銭を紙や布で巻いて、15cmほどのひらひらの尾をつけて「チェギ（羽根）」を作ります。チェギを地面に落とさないように、足の内側や外側で蹴り続け、蹴り上げた回数が多い人が勝ちとなります。4人で遊ぶ場合は、北→東→西→南→北の順で連続して蹴り、落とした人が負けというのが基本的なルールです。

○ノルティギ

わらの束や穀物の入った袋などの上に細長い板をのせ、向かい合った2人が、交互に高く飛び上がる遊びです。相手が落ちてくる力を上手に利用すれば、かなりの高さまで飛び跳ねることができます。

○ペンイチギ（こま回し）

ペンイとは「こま」のことです。チギとは「叩く」という意味です。50cmほどの細い棒に紐をつけ、紐でこまを叩いて回します。

○ヨンナルリギ（風揚げ）

四角い形やエイの形をした凧が一般的です。風を吸収し、方向を調節するために、真ん中に穴が開いているのが特徴です。子どもからおとなまで楽しまれ、相手の凧糸を切る「ケンカ凧」もよく行われます。韓国では、1年の無病息災を願うために、「送厄」や「送厄迎福」と書いた凧を高く揚げ、糸巻きの糸が全てなくなったら、糸を切って遠くに飛ばしてしまうという風習があります。

○トゥホ(投壺)

唐の時代の中国から伝来した遊びで、韓国では高麗時代から朝鮮時代にかけて、宮中や貴族の屋敷内で行われていました。遊び方は簡単で、2mほど先にある壺に矢を投げ入れ、壺に多くの矢を入れた方が勝ちです。宮中で王族たちがトゥホを行う際は、王が直々に賞を与えたとも伝えられています。

○コンギ

コンギという玉を使う遊びです。

- ①一人が一つかみのコンギを散らばるように地面に投げます。
- ②次の人がそのうちの一つを拾って空中に投げ、これを受けるまでに、すばやく地面のコンギを拾い上げます。
- ③うまく拾うことができれば、手の中にあるコンギの一つをうまく空中に投げ、また地面のコンギを拾い上げます。
- ④一つも拾えなかったり、投げ上げたコンギを受けそこなったりしたら、次の人と交代します。できるだけたくさんのコンギを拾い上げた人の勝ちとなります。

中国の遊び

○ジェンズ

中国の伝統的な遊びで、蹴鞠のように、羽のついた錘を、主に足の裏で蹴って遊びます。一番多く蹴り続けた人が勝ちです。バドミントンのようにネットを挟んで、点数を取り合う遊び方などもあります。

○象棋（シャンチー）

中国版将棋です。駒は7種16枚あり、動きも日本とは異なります。縦横9本の線の引かれた専用の盤を用い、駒はマスではなく囲碁のように線の交点に置かれます。中国では盛んに行われています。

ネパールの遊び

○サルバ

10人1組となって、全員前の人を肩を持ち1列になります。先頭がヘビの頭で、最後尾がシッポとなり、頭の人からシッポの人までタッチしようとする遊びです。

タイの遊び

○ガー ファウ カイ（たまごをまもるカラス）

巢（1メートルの円）の中に10個の卵（石やボール）を置きます。巢の中に入るカラス役は1人です。他の人は卵を取る役となります。卵を取るときに、カラスにタッチされるとカラス役を交代します。卵が全部なくなると終わります。

インドの遊び

○カバディ

インドのおにごっこで、国際ルールのあるスポーツです。

- ①ドッジボールのようなコートの中に両チームが分かれて入ります。
- ②先攻チームは一人おにを決めます。おには、相手コートに入り、絶え間なく「カバディ、カバディ…」と明瞭に言い続けながら、相手チームの子をタッチして自分のコートに戻ります。タッチした人数分の得点をもらえます。（攻撃は一呼吸の間のみ）
- ③守り側は、タッチして戻ろうとするおにの足や腰をつかまえて動けなくすると、1点が入ります。
- ④おににタッチされた人や守り側に捕まったおには、自分のチームが得点するまで、コートの外に出ます。

世界のうでずもうと指ずもう

うでずもうは、日本ではお互いにくでを組んで相手の方に倒した人が勝ちですが、ブータンでは、一人が片うでを曲げてさしだし、もう一人が、その手首を両手でにぎります。合図で、にぎられた方が手をふりほどこうとします。ふりほどこうことができれば、その人の勝ちです。

指ずもうは、日本では親指をおさえこんだら勝ちですが、ポリネシアのツバルでは、指を引っ張り合い、指を伸ばされた方が負けです。

世界のジャンケン

世界にも、日本と同じような3種類（グー・チョキ・パーの形）のジャンケンや、5種類の指の出し方をするジャンケンなどがあります。

○韓国のジャンケン

韓国のジャンケンは、日本とほぼ同じです。「バウイ」が「グー」、「カウイ」が「チョキ」、「ボ」が「パー」です。「カウイ・バウイ・ボ」とかけ声をかけながら、「ボ」のときに手を出します。

バウイ（岩）	グー
カウイ（はさみ）	チョキ
ボ（紙・布）	パー

○インドネシアのジャンケン

手の形は、ガジャ（グーの形）、オラン（人差し指だけ立てる）、スムット（小指だけ立てる）の3種類です。かけ声は「スィー」です。

ガジャ（ソウ）	グー
オラン（人間）	チョキ
スムット（アリ）	パー

○マレーシアのジャンケン

手の形は、5種類です。いつも全種類を使うのではなく、人数や状況などで決めるそうです。たいていは、「小鳥」「水」「てっぽう」の3つが使われます。かけ声は、「ワン・ツー・ズーム」です。

〔三つを使う場合〕

てっぽう	グー
小鳥	チョキ
水	パー

〔五つを使う場合〕

板（手のひらを下に向ける）	水と小鳥に勝ち、石とてっぽうに負ける
水（手のひらを上に向ける）	石とてっぽうに勝ち、板と小鳥に負ける
小鳥（指先をつぼめた形）	水に勝ち、板、石、てっぽうに負ける
石（手のひらを下にして握る）	板と小鳥に勝ち、水とてっぽうに負ける
てっぽう（親指・人差し指をのばし、他の指は握る）	板と小鳥と石に勝ち、水に負ける